

そよ風

第3号

今治市立立花中学校

「問題だらけの女性たち」 ジャッキー・フレミング<著>

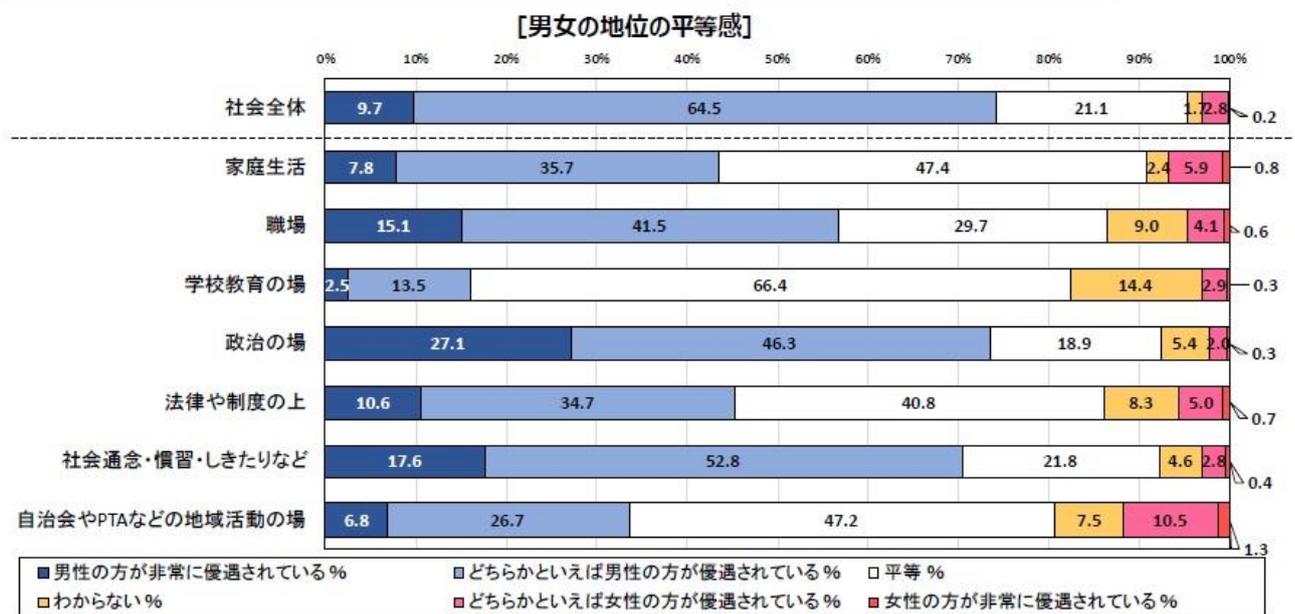
人権だよりに、何というタイトルの本を紹介するのか！と思われた方もいるかもしれません。土俵に女性が上がってはいけない問題やセクハラ問題で女性の人権にかかわるニュースが続いた最近、ちょっと話題になっている本です。19世紀イギリスの著名な男性たちの女性観が紹介されていますが、「えっ!？」と、びっくりするような内容です。

- 「女性の知能は発明や創造には向いていない。男性を讃えるのが天職だ。」 美術評論家ラスキン
- 「女性がボールを投げようとしている姿は、見るも無残。女性はボールを投げるより拍手をしているほうが自然。」 オリンピックの父クーベルタン男爵
- 「いかなる女性の試みもやるだけ無駄。」 文豪モーパッサン
- 「男性がすべてにおいて優れているのは明白。」 進化論のダーウィン
- 「女性は芸術や他のいかなる分野においても、真に優れた、独創的な偉業を、成し遂げることが出来ない。」 哲学者ショーペンハウワー

女性は男性より脳が小さく、感情的すぎるので論理的な思考はできず、学問にも芸術にも不向きであると信じられていたのだそうです。200年たった現代に生きる私たちは、これらの言葉を何という偏見だったのかと、笑える人権感覚をもっているでしょうか。

今の日本の男女の地位の平等感を示すグラフを見てください。

「平等」と答えた者の割合が、「社会全体」、「職場」、「政治の場」、「社会通念・慣習・しきたりなど」で低くなっている。

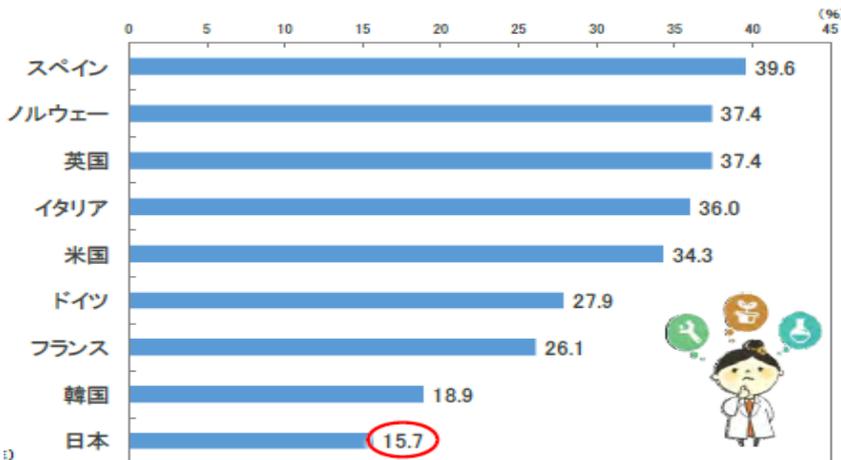


(出典) 内閣府大臣官房政府広報室「男女共同参画社会に関する世論調査」(平成28年9月調査)

このグラフを見ると学校教育の場では男女が平等と答えた人の割合が一番多くなっています。しかし社会全体で見ると男性の方が優遇されていると感じている人は70%を超えています。さらに、次のグラフを見てください。

研究者に占める女性の割合は、他の先進諸国と比べて低い

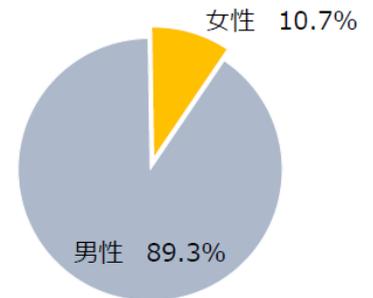
【諸外国の研究者に占める女性割合】



(備考)
1. 総務省「科学技術研究調査」、OECD「Main Science and Technology Indicators」、米国立科学財団(National Science Foundation: NSF)「Science and Engineering Indicators 2016」より作成。

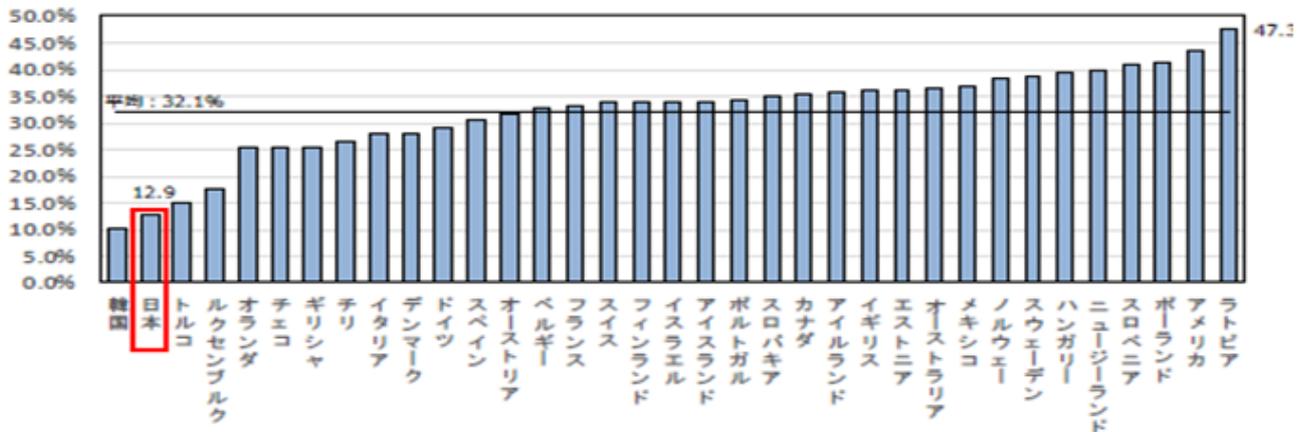
スポーツ団体における女性役職員比率は10.7%。

【スポーツ団体における女性役職員の比率】



(備考)
1. 出典 日本体育協会「女性の政策・方針決定過程への参画状況調べ」

● 管理的職業従事者に占める女性割合 (OECD諸国)



今、私たちがこんなものだと思っている現実、世界から見たら不平等な遅れた社会に見えてきます。

目指すは 「男女共同参画社会」

男女が対等で、自らの意思によって社会のあらゆる活動に参画する機会が確保され、男女が均等に政治的、経済的、社会的、文化的利益を受けることができ、共に責任を担う社会。そんな社会を目指して、男性も女性も共に頑張りましょう。きっとそれは今より生きやすい社会のはずです。近未来に、21世紀の人権感覚は何と遅れていたのかと笑えますように！

(参考資料) 女性活躍加速のための重点方針2018策定に向けて ブック・アサヒ・コム